

日本英語教育学会・日本教育言語学会第53回年次研究集会 2023 年3月5日

～～複数言語連携学習～～

進む学習者！出遅れる教材！どうする教育？：統合的言語能力の動的生成・ランゲージングをめぐって

# 統合的言語能力の動的生成、ランゲージング ——自律的言語学習の促進を目指して——

湯山トミ子 東京都立大学

# 概 要

はじめに 報告主旨・概要

1 統合的言語能力着目への背景

2 多言語学習の現在(基本形態と特徴)

3 統合的言語能力とは

4 統合的言語能力の動的生成(DMM論)に着目した言語学習の構築

おわりに 第二報告へ

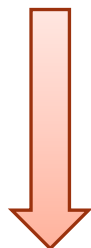
# 1 統合的言語能力着目への背景

# 研究課題: 日本語母語話者の英中連係学習法&システムの開発研究

\* 科研基盤 (C) 2021.4~2024 .3

「母語活用型日英中三言語対照学習法と学習システムの開発研究」

課題成立の背景: 大量の初修中国語学習者(入学学習者の3~4割)⇒継続学習者の激減 1割未満



理由: 複層的⇒学習者自身のモチベーション、学習意欲の減退(学習負荷)  
初修外国語教育制度の縮減(継続学習の制度、枠組み)

大量の基礎初級学習者が継続学習に進まず学習を終了



中国語基礎初級学習経験者が大量に潜在化 (日本語母語話者の中国語習得力発揮以前)

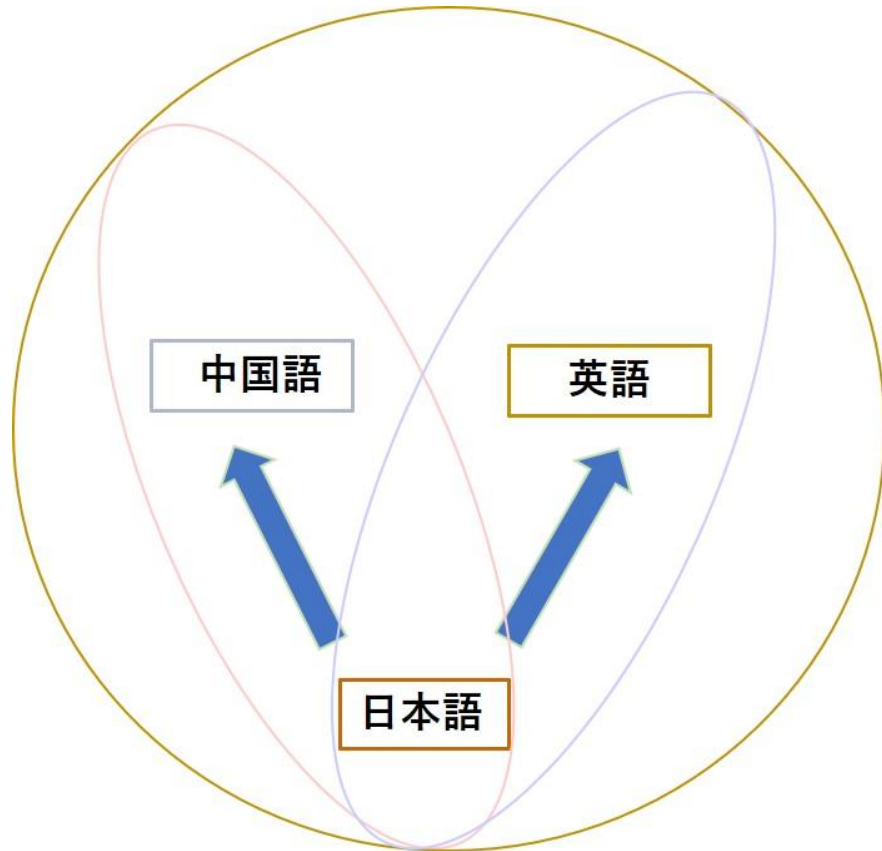
英中二言語の国際的需要の増大、学習・教育拡充の要請

中国語学習者の英語苦手意識、英語再学習の要望

中国語の発展学習と英語学習び直しのための基礎再学習(以下簡略に再学習、学び直しとする)

# 中国語の発展学習と英語の再学習をどう行うのか？

学習者のこれまでの言語学習形態



英語(既習)中(初修)の学習は個別に進行

中国語の発展学習と英語の学び直しも  
モノリンガル型単言語学習として個別に行うのか？



英中個別の言語、個別に学習

学習活動、成果も個別に言語ごとに認知、評価

言語学習の積み重ねは言語の壁に分断され連携されにくい

## 2 多言語学習の現在(基本的形態と特徴)

## 【多言語学習隆盛の時代】

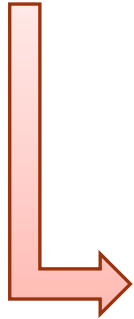
・ICTの発達、インターネットの普及、日常的な多言語環境と簡便な言語アプリ(音声, 翻訳, 学習など)



大量の生の多言語の音声と視覚情報、文字情報

大小様々の多彩な多言語学習教材と多言語接触の契機、簡便で多様なコミュニケーション実践

・多彩な多言語メニューを備えた大規模多言語学習サイト⇒メニューは多くとも学習者と目標言語は一对一の縦割り型



【選択学習型大規模多言語学習システム】

TUFS (東京外大)、高度外国語教育独習コンテンツ (大阪大) 20言語、LiveMocha (37言語)、米 국무省外交官養成コース内公開サイト FSI Language Courses (45言語)、Duolingo(28母語話者向け94言語) 等.

・現行の**多言語学習システムの特徴**

⇒基本的に**モノリンガル型**



**複数言語を同時に学習することはできない**

## 【多言語学習としての英中学習形態】

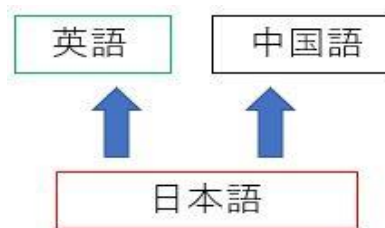
- ・初級修了段階の中国語学習者が中国語の学習を発展させ、苦手感のある英語再学習の準備(補助)

現行の多言語学習形態では 複数言語の学習(ex中英)は 基本的に個別の学習として異なる経路で行われる

便宜的に中国語で英語を学ぶ、英語で中国語を学ぶことはできても

両言語の習得を目指す構造的なプログラムに基づいて系統的に学べるわけではない

日本語を用いて英語、中国語を学ぶ



一言語で複数の言語を学ぶ

英語または日本語で中国語を学ぶ



複数の言語で一言語を学ぶ



多言語学習といっても言語別に行われる単言語学習の並列



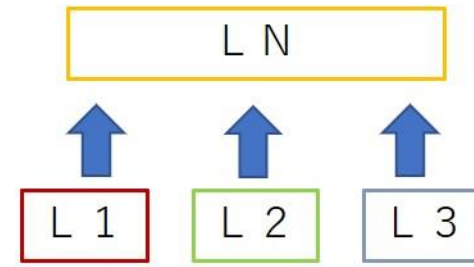
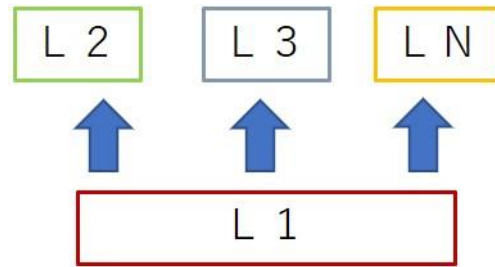
## 【学習形態と学習者】

- ・**現在の多言語学習形態**： 基本的に個別の単言語型学習の集積 言語単位で構成される (L1、L2、L3、Ln)

学ばれる言語間に関係性はなく、学習活動、学習成果は言語ごとに分離、言語能力は個別言語の能力としてのみ認知

⇒ 言語種により構成されるタコつぼ型の言語学習

(言語を基盤とする⇒言語本位の学習)



- ・**学習者にとっての言語学習**： 学習の積み重ねにより言語学習の体験、言語能力が育まれる (L1+L2+L3+Ln)

個別の言語学習に還元できない言語能力の発展、個別の言語学習成果には顕現しない能力

⇒ 学習者が自らの内に内在する言語学習を認知、活用し、さらなる言語学習を推進できないか

(学習者を基盤とする⇒学習者本位の学習)

## 【言語本位と学習者本位】

・**現行の多言語学習形態**:モノリンガル型 言語種による学習活動、成果の個別化

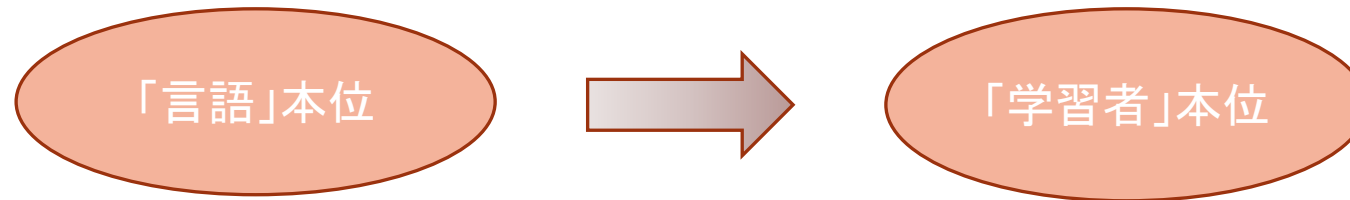
言語単位で構成 言語学習を重ねても学習者に育まれる言語能力、学習体験は個別化

言語学習の総合的な能力(統合的能力)として顕在化しにくく、認知されにくい「言語」本位の構成

・**学習者の言語体験**:言語学習は多層的に行われる 言語種に還元されえない言語能力の形成

「母語+外国語」の言語学習歴による個別言語能力を越える内在的な言語能力の形成

多層的、内在的な学習者の言語学習体験、言語能力を認知、活用できる「学習者」本位の構成



求められるパラダイムの転換

言語学習歴（母語＋外国語）により、  
学習者自身が自らの内に多層的に育む言語学習の集積としての言語能力

個別言語の達成度、習得度に還元されない

学習者のもつ内在的な統合的な言語能力の認知、活用



現行のモノリンガル型単言語型多言語学習では実現できない



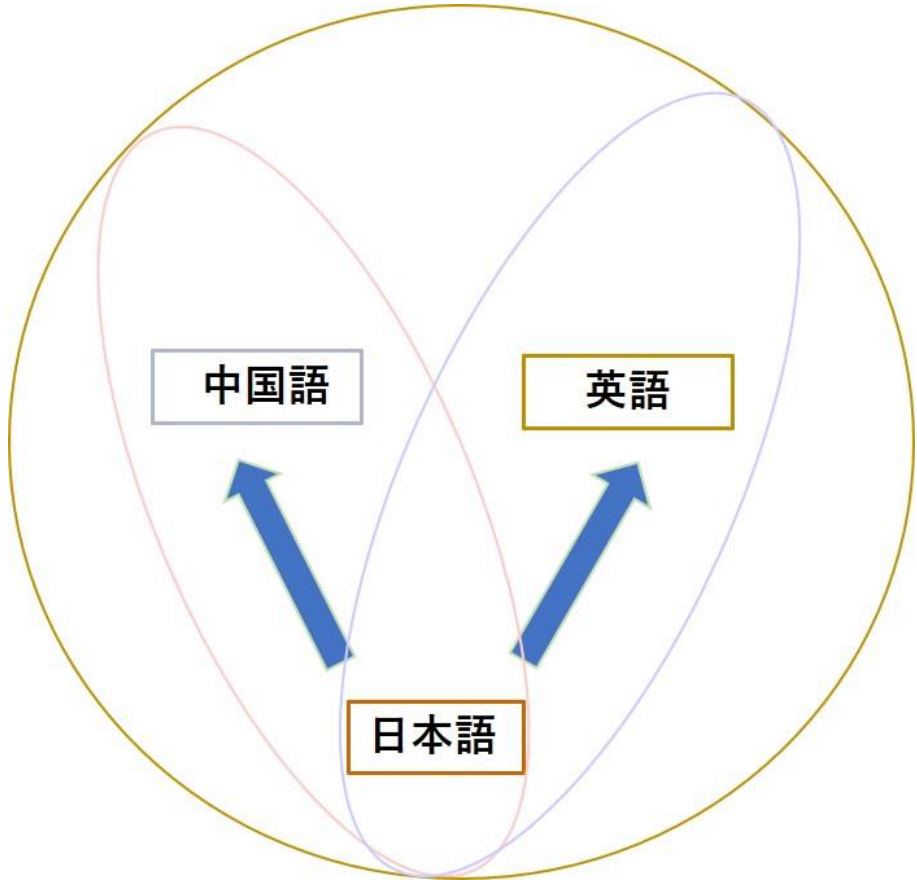
言語の枠組みに分断されない言語学習、

学習者が自らの言語能力を認知活用できる言語学習

複数言語連携学習

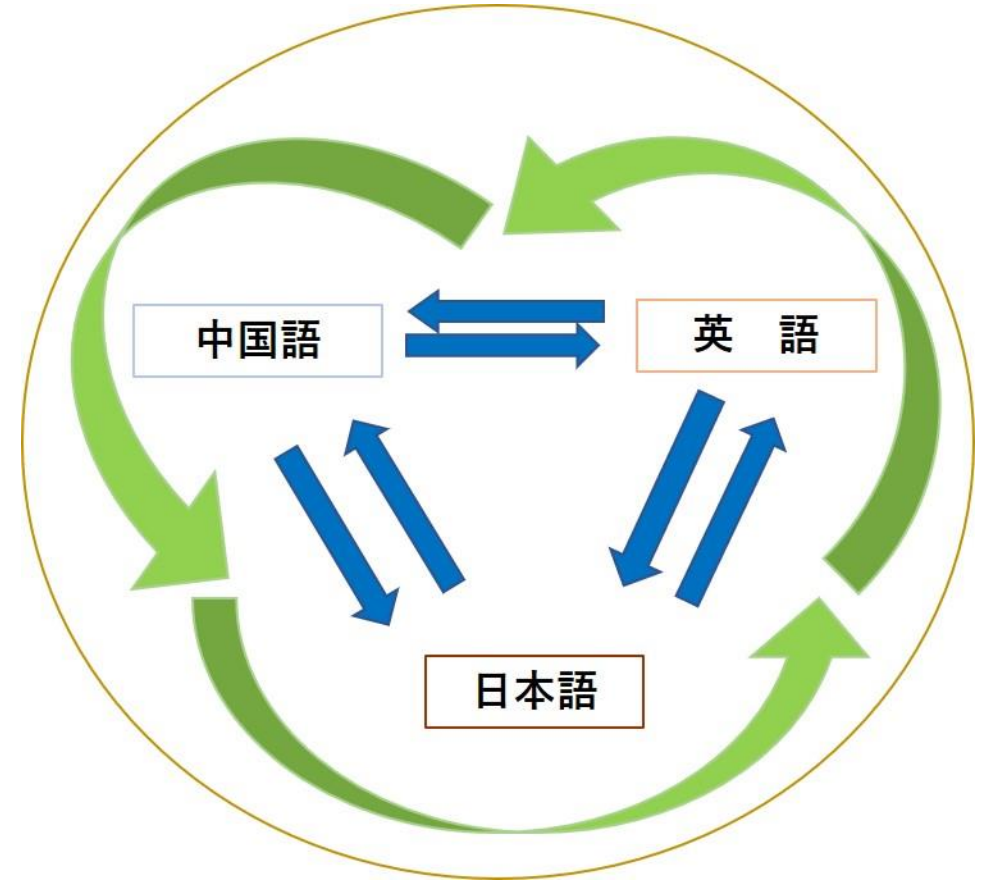
# 【統合的言語能力の活用】

目標イメージ図



モノリンガル型学習  
潜在化し可視化されない言語能力(無表示)

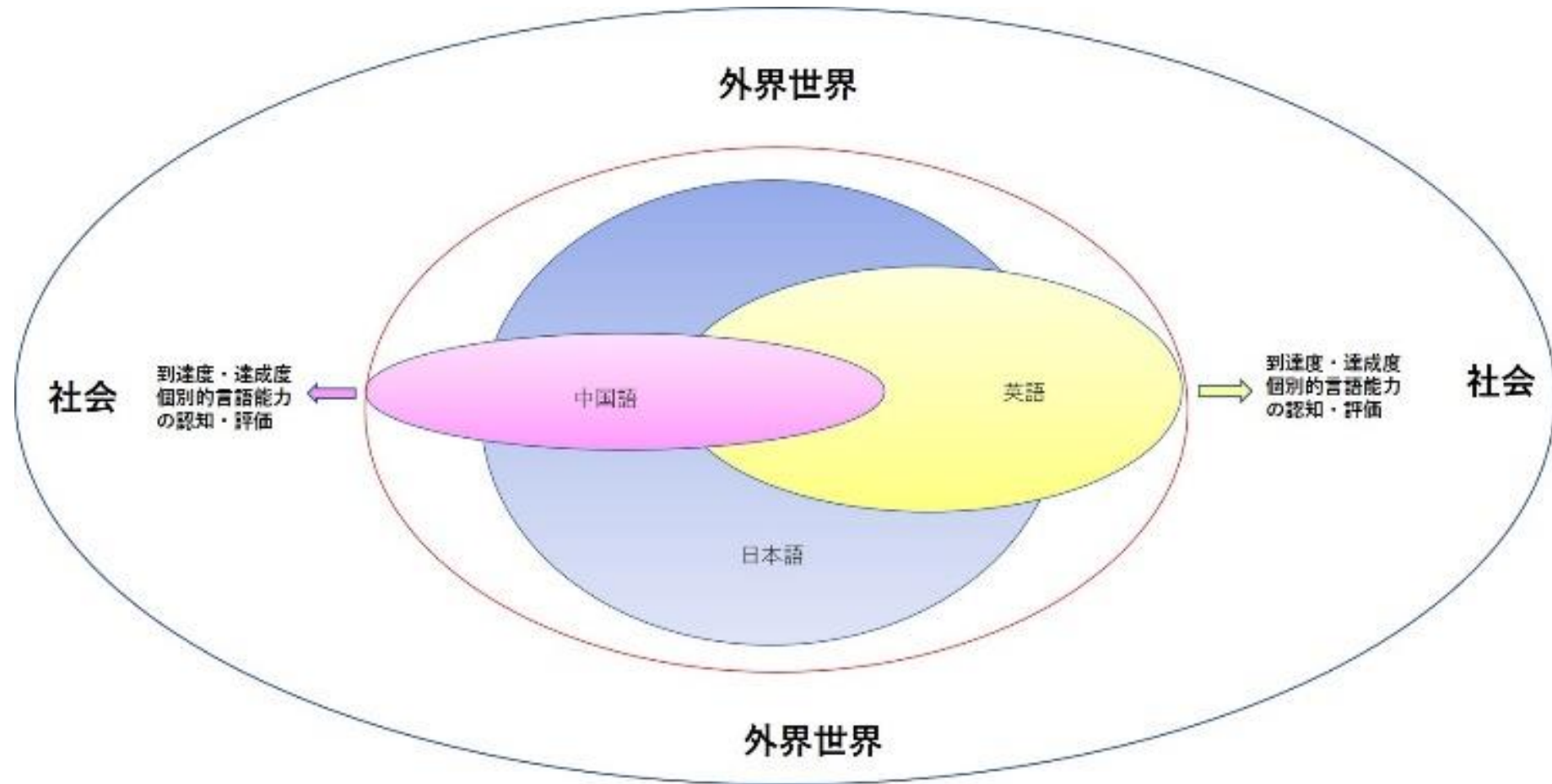
青矢印 学習活動  
緑矢印 言語能力(右図)



言語連携による言語学習 (ランゲージング)  
動的に運用、活用される言語能力

### 3 統合的言語能力とは

## 【学習者に内在する言語能力のイメージ図】



(「母語日本語＋既習外国語英語・初修外国語中国語」)

\* 内円枠内に生成され、そのままでは顕在化しない、不可視の統合的な言語能力、言語学習体験

## 【言語能力】

### ①言語学習による言語能力

個別的な言語能力（音声、文法、語彙、理解力、運用力など）として認知、評価

### ②言語学習体験により形成、生成される内在的な個別言語の言語能力に還元できない言語能力（統合的言語能力）

**言語学習歴(母語+外国語)を構成する各言語の個別性、言語間の相互影響性、  
学習形態、学習環境、学習時間、学習者の資質、外界との接触体験、メタ言語意識**など、

↳ **複数の要素が複合的に作用して形成**

ex 言語学習歴「母語日本語+既習英語+初修中国語」による統合的言語能力の特徴

↳ **言語の個別性（日中英三言語のそれぞれの特性）  
言語間の相互影響性（日英、日中、日英中などの組み合わせにより作られる）  
学習、学習者の特徴**

モノリンガル型では認知されにくい内在的、多層的、多様な実体

## 【内在的統合的言語能力】

### (1) 言語ごとの到達度に集約されない学習者の統合的な言語能力の認知

◆CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠、Common European Framework of Reference for Languages）の言語能力観

母語とそれ以外の複数の言語を学ぶことを提唱する複言語主義（言語政策）推進のための産出言語の認知枠組み。

母語と他の言語との二分を基本枠組 ⇒ 言語能力は個別言語の寄せ集めではない全体で一つの統合性をもつもの

\* 異文化間理解には文化間理解力と言語能力を想定してCEFRで参照を進める（CARAP・FREPA） 「言語と文化の多面的アプローチのための参照枠」がある。

◆「ことばの市民性」（自己発信と他者理解により社会を形成する個人の言語活動．細川2012．細川、尾辻、マリオッティ 2016）：CEFRの受容をめぐる論議を経て、日本から発信された言語能力観。

母語、第二言語、外国語等の言語区分を取り去り、個人のもつ言語能力の総体を重視しようとする言語能力観



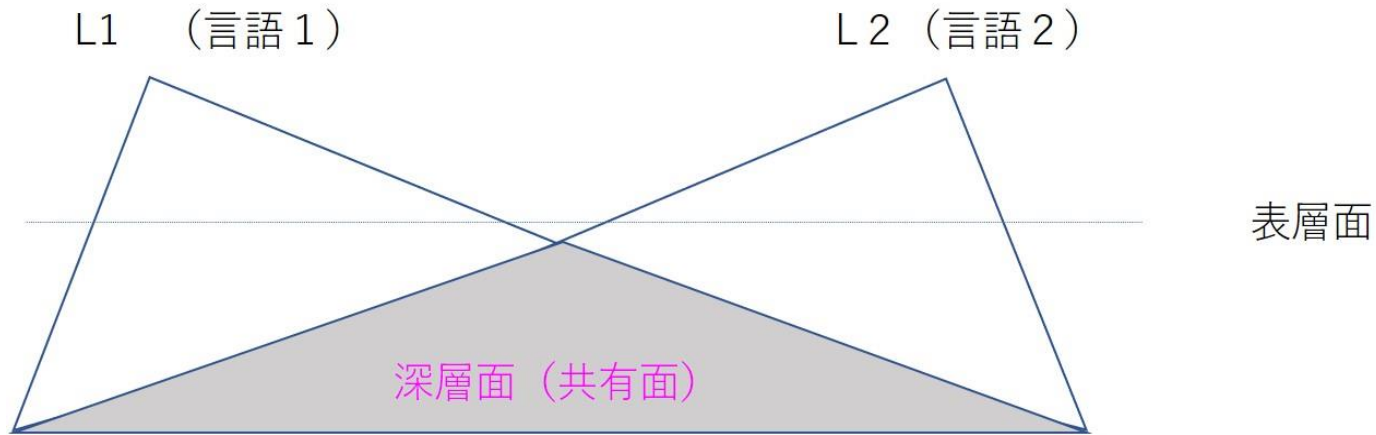
## (2) 統合的な言語能力の認知と運用論

バイリンガル研究：70年代 単言語の分立とその切り替えによる運用説（分離基底言語能力論SUP）

: Separate Underlying Proficiency model



- 共通（共有）基底言語能力論（CUP：Common Underlying Proficiency model、Cummins 1980）  
個別言語の成立基盤に共有される統合的な言語能力
- 発達相互依存仮説（developmental interdependence hypothesis、Cummins 1979）：言語間の連係性、類似性のない言語間の関係性（転移）



表層では二つの言語、深層では共有、表記法は二つ、読む書く考えるプロセスは一つ

Jim Cummins 1986 Bilingualism in Education p 83を基に作成

先行する統合的な言語能力：CEFRの統合的言語能力論、Cumminsのバイリンガル論  
言語間の関係性、影響性自体は明確化されない



動的マルチリンガリズムDMM (P. Herdina and U. Jessner 2002)

A Dynamic Model of Multilingualism: Perspectives of Change in Psycholinguistics  
Multilingual Matters Ltd; (2002.3)

言語学習、言語能力を固定した言語枠でとらえず、学習者自身による動的生成による発展と見なす  
概念規定できない動的なもの(動性)と認知する言語観

「言語」基盤(Chomsky UG論 1965)から「話者」基盤へのシフト 転換を図る主張 (大山万容 2021)

複数言語連携学習: 複数外国語学習を個別言語の習得に完結させず、  
言語学習により生成される言語能力の総体的発展を図ろうとする言語学習論に有用な視点

「言語本位から学習者本位へ」のパラダイムの転換論としても注目される

## 4 統合的言語能力の動的生成(DMM論)に着目した言語学習の構築

## 【統合的言語能力の動的生成のメカニズム】

- ・DMM論(2002): 統合的言語能力は個別言語の影響性、相互作用により生成される。  
個々の言語は全体を作るモジュールであり、全体を構成する分離できない固有性をもつ要素として認知

Dynamic Model of Multilingualism

- \* DMB論: 学習者の統合的言語能力における「個別言語」の名称、存在概念そのものを否定する  
言語種による区分(言語という分類、個別言語の存在)を認めない、言語を超越するトランスランゲージング、しかし個別言語の枠抜きには記述できない(矛盾の自己認知)

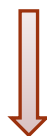
Dynamic Model of Bilingualism (García&Li 2014)、(大山万容 2019)

Translanguaging : language, bilingualism and education / Ofelia García and Li Wei Palgrave Pivot; 第2014版 (2013/11/29)

外国語学習者の統合的言語能力(「母語+外国語」を構成する言語種により生成され、個別言語に還元できない言語能力)

- ↳ ①構成言語の個別性、言語間の関係性、相互影響性
- ②学習形態、学習環境、学習時間、学習者の資質、外界との接触体験、メタ言語意識など、

言語の固有性と学習・学習者の固有性⇒複数の要素が複合的に作用して形成  
動的、可變的

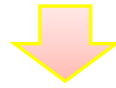


- \* 日英中の影響性⇒母語、学習順序 母語日⇒(英中か中英か)、母語中か英か特徴相違
- \* 学習者の固有性多様(学習履歴、パターン析出等も必要)

学習者に内在的、多層的に形成され、生成され続ける概念規定できない言語能力

言語の固有性と学習・学習者の固有性  
複数の要素が複合的に作用して多層的、内在的に形成され  
動的に生成され続ける能力

概念規定できない可視化しにくい能力

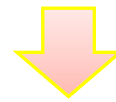


いかに認知活用できるか？

てがかり: 構成言語の個別性、言語間の関係性、影響性の分析⇒生成される言語能力の基本的特徴の初歩的認知



「言語学的特色 + 学習者における生成」の複合



日中英: **言語**: 日本語母語話者における日英中の言語的関係性、影響性の考察、分析の深化、発展



**学習**: 学習主体である学習者の学習状況、意識の考察、現行の学習形態、学習法の考察、分析

単独ではなく双方からの視点が重要。

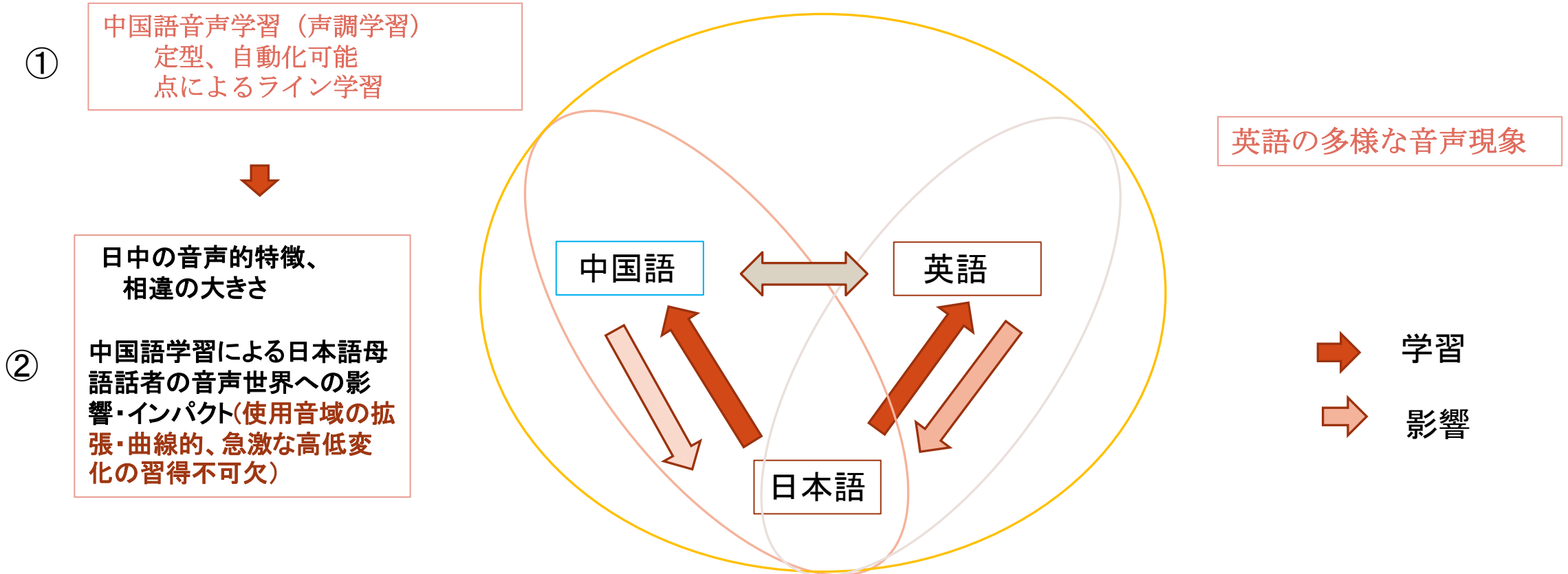
# 【学習者における統合的言語能力の生成考察の必要性】

〔例〕 日中英連携学習:アクセント・リズム・イントネーション学習の攻略法の探求 [中英音声学習の影響性] 学習者分析不可欠

↓  
日本語母語話者のための

中国語学習の特徴(①②)は、中国語未学習時の英語学習と比較して英語習得に効果はあるのか？

英語音声学習は日本語母語話者の中国語学習にどんな影響性があったか？



学習者インタビューによる中英両言語学習者における

統合的言語能力の動的生成の事例紹介

第二報告 「学習者の声：自然発生的ランゲージングについて」へ

## 主要参考文献

### 【多言語システム】

1. 東京外国語大学, TUFS (東京外国語大学言語モジュール), [http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/about\\_site.html](http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/about_site.html), 2023.3.1
2. 大阪大学高度外国語教育全国配信システムプロジェクト, 高度外国語教育独習コンテンツ. <http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/flc>, 2023.3.1
3. 米 국무省, 外交官養成コース内公開サイト, FSI Language Courses, <https://www6.fsi-language-courses.org>, 2023.3.1
4. 東京外国語大学, 国際多言語学習者コーパス・誤用辞典, <http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus> 2015～2022.7.25. 望月圭子, 英日中国語ウェブ誤用構築コーパスと母語を踏まえた英語・日本語・中国語教授法開発, 科研基盤研究 (B) 2013-2015. 三言語日英中二言語比較ユニットの連合による複合学習.
5. Duolingo, <https://ja.duolingo.com>, 28言語の話者向, 94言語のコース.

### 【統合的言語能力と母語活用】

1. Conseil de l'Europe, 吉島茂・大橋理枝 (訳), 『外国語教育〈2〉外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』, 朝日出版社, 2004. \*Council of Europe(2001) Common European Framework of Reference for Language



2. ①細川英雄, 尾辻恵美, マルチェッラ・マリオッティ編『市民形成とことばの教育—母語・第二言語・外国語を越えて』, くろしお出版, 2016.  
② 細川英雄『ことばの市民になる—言語文教育学の思想と実践』, ココ出版社, 2012.
3. ① Jim Cummins , Merrill Swain , Bilingualism in Education: Aspects of theory, research and practice (Applied Linguistics and Language Study) :Routledge, 2016  
② Jim Cummins, Nancy. H. Hornberger, Bilingual Education and Bilingualism,29 : Anintroductory reader to the writings of Jim Cummins, Colin Baker, ed. Clevedon, UK, multilingual Matters, 2001.
4. Philip Herdina and Ulrike Jessner ,A Dynamic Model of Multilingualism: Perspectives of Change in Psycholinguistics (Multilingual Matters, 121 )Multilingual Matters Ltd; Illustrated版 , 2002.
5. Ofelia García and Li Wei ; Translanguaging : language, bilingualism and education, 第2014版, Palgrave Pivot, 2013.
6. 加納なおみ, “トランス・ランゲージングを考える : 多言語使用の 実態に根ざした教授法の確立のために”, 母語・継 承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究. 12 , p.1-p.22 , 2016.3.31.
7. 大山万容, “ トランスランゲージングと複言語教育-言語能力観から検討する” ,MHB2019年度研究大会、口頭発表資料PDF(ppt) , 2019. 8.7.

## 【本課題関係報告・論文】

1. 湯山トミ子, “統合的言語能力に着目した複数言語連携学習の構築ー内なる言語との内なる出会い(日中英の場合)ー”, 日本英語教育学会・日本教育言語学会・日本ビジネスコミュニケーション学会臨時研究集会, 2022.11.20, 口頭発表
2. 湯山トミ子, 神田明延, 篠塚麻衣子, 藤本かおる, 武田紀子, “言語能力の動的生成をさぐるー日本語母語話者の中国語声調学習と英語音声学習ー”, 日本英語教育学会・日本教育言語学会・日本ビジネスコミュニケーション学会臨時研究集会, 2022.11.20, 口頭発表
3. 湯山トミ子, “身体化アプローチによる外国語の発音学習ー日中英連携対照学習の場合ー”, 明治大学サービス創新研究所研究会, 2022.7.29 口頭発表
4. 湯山トミ子, “外国語学習による言語主体の形成-発音学習の身体化をめぐる”, 電子情報通信学会 思考と言語研究会, 2022.7.10 口頭発表
5. 湯山トミ子, 神田明延, 武田紀子, 藤本かおる, 篠塚麻衣子, “言語能力に着目した多言語学習の試み: 中国語学習者のための母語活用型日英中三言語対照学習法&システムの考察”, ”信学技報”, vol. 121, no. 87, TL2021-11, pp.44-49, 電子情報通信学会, July 2022 (電子情報通信学会2021.7.4 口頭発表)
6. 湯山トミ子, 武田紀子, 神田明延, 藤本かおる, 篠塚麻衣子, “日本語母語話者のための中英連携学習システムの構築”, 日本英語教育学会・日本教育言語学会第52回年次研究集会, 2022.2.26 口頭発表
7. 湯山トミ子, “多言語学習の新たな試み: 言語本位から学習者本位への転換を求めて”, 明治大学サービス創新研究会, 2022.3.8 口頭発表

8. 湯山トミ子, 神田明延, 藤本かおる, 篠塚麻衣子, 武田紀子, “言語能力に着目した外国語学習の考察- 日本語母語話者のための英中連携発音再学習の攻略”, ”信学技報”, vol. 121, no. 440, TL2021-44, pp.68-73, 電子情報通信学会, March 2022 (電子情報通信学会 2022.3.13 口頭発表)